

【連載】

コタツキーが行く！

まだまだ伸びる！ 注目の介護事業所探訪

第28回 あらゆるシーンを「食」でサポート、 総合事業への挑戦の道——(株)ナチュラルビー



アグリマス(株)代表取締役 小瀧歩



代表取締役
長友宮子氏

宮崎市内でデイサービスと総合事業を手掛ける(株)ナチュラルビー。デイに自らの名を冠した「みやこや」を運営する同社代表取締役の長友宮子氏に、「食」を通じた総合事業の展開を中心に聞きました。

子どもも高齢者も「食」「栄養」で支える

小瀧●総合事業も地域ごとでだいぶあり方が変わってきたと思うのですが、現在の取組みについて、教えていただけますでしょうか。

長友●いままで一見するとバラバラにやっていたいろいろな事業が、すべて総合事業という枠組みのなかでつながってきたという気がしています。もともと地域包括ケアシステムというところから入った事業で、デイサービスの立ち上げにしても地域密着型でやってきました。そこを拠点に宅配弁当をやってきたり、子ども食堂をやったり、介護予防事業で地

域の人と交流したり、さまざまなイベントをやってきたわけです。どれもそんなにお金にはならないことでしたが(笑)、とにかく地道に3年くらいやり続けてきました。

そうしたなかで、これまでの活動をbooks等を通じてみてくださる方が全国でふえはじめ、次第に問合せもふえてきました。数年前、地域包括ケアシステムの研究・調査をされている方が来県され、「いま、こちらでやられている活動は、すべて総合事業として市に申請ができるのでは」とアドバイスをいただいたのです。それで市の担当部署に相談してみたところ、「1度『みやこや』さんの取組みや考えを聞かせてください」という流れになって、それまで行なっていたことを取りまとめ、プレゼンテーションをさせていただきました。担当の方が過去に何度か「みやこや」へ見学に来てくれていたこともあって、話が早かつ

たのだと思います。

小瀧●それまで半分は手弁的にやっていた配食や子ども食堂、地域の交流拠点事業が、すべてを総合事業として市の予算もついで行ないやすくなったということでしょうか。

長友●そうなんです。さらに、栄養士による個別栄養相談なんかも総合事業として入れられる可能性があるということを知ったので、確認したところ宮崎市でもできるということがわかり、一気にいろいろな可能性が出てきたのです。

また、総合事業の通所型サービスC(短期集中予防サービス)は、通常は運動をメインで行なうものですが、栄養指導もそれに入れられるようになりました。利用者さんからすればもちろん無料ですから、すごくよい仕組みになっています。栄養スクリーニング加算だと単価も小さいですし、人員配置基準とかもあるの

で、事業者にとってはメリットが少ないじゃないですか。訪問栄養指導という点からいくと、総合事業の短期集中型は配置基準も含めて仕組みがシンプルなので、使いやすいのではないかと思います。

小瀧●全国どの自治体でもこの仕組みってあるものなのでしょうか。

長友●すべての自治体が行なっているわけではないと思います。ただ、総合事業自体はますます重要なものになってくると思いますし、どこの自治体でもそれを具体的に行なえる事業者と成功事例を求めているのではないのでしょうか。多くの自治体や事業者の方からも問合せをいただのですが、どちらもうまいやり方がわからず、試行錯誤しているという状況かなと感じます。

小瀧●私も通常の介護事業、デイサービスにおける総合事業はイメージできるのですが、いま、御社でされている「子ども」関係の事業についてはどのように総合事業として立て付けて、どのように請求されているのか、そこを教えてください。

長友●この事業は総合事業の一般介護と



「みやこや」での子ども食堂の様相

いうものになります。宮崎市の場合は、居場所と介護予防をミックスさせた事業になるのですが、他の事業に比べると自由度が高いため運営者のカラーや強みを出しやすいところがメリットかと思えます。

自治体の事業予算が組まれていることが前提になりますが、各社がコンペ形式でプレゼンを行ない、それをクリアすると人件費や運営費を「委託事業」という形でいただくことが可能になります。

小瀧●そうなんです、ちなみに、子どもさんは週に何人くらいが通われているのですか。

長友●学校帰りに宿題をしに来る子どもが、毎日平均して2〜4人くらいでしょ

うか。子ども食堂を開催した時は10人くらい集まりますね。居場所づくりや介護予防に関する事業というのは、単発で行なうところはあるのですが、それを事業として継続して行なっているところはやはり少ないので、それを見学しに全国から来られます。宮崎市に対してここ何年か相談してきたことが、やっと認められたという感じです。市の担当の方々の感度が高かったのも本当によかったと思っています。

小瀧●確かに高齢者と子どもを一緒に見ていく混合型の事業は、昨今の流れになってきていますよね。一方で、それを事業化してしっかり運営しているところはまだまだ多くはないのでしょうか。

長友●全国の子どもの食堂運営者と情報交換をしているのですが、食を通じた居場所支援が介護保険でできるということに関心をもっていただけの方もふえています。子ども食堂や地域食堂の継続については、運営者の悩みでもあるので今回の取組みは1つの解決策として有効ではないかと思います。もっとこのノウハウが広がると、他の子ども食堂の運営も楽になるのかなと。

「栄養ケア・ステーション」としてさらなる可能性も

小瀧●「栄養」に関する事業のほうは、どのようなモデルで運営されているの

しょうか。

長友●通所型サービスCなのでですけど、栄養に特化した事業をつくって、「体操、口腔、栄養、認知」の4つをカバーしないといけない形になっています。もともと宮崎市と栄養士会で行なっていた事業があったのですが、そこに私も入っていたので今日に至っています。

小瀧●訪問栄養指導とは、具体的にどのような行なっているのでしょうか。

長友●要支援1、2の方を対象にご自宅に伺って栄養指導をするのですが、栄養加算等と違うのは、ご本人だけでなく、実際に料理をつくるご家族やヘルパーさんも同席して行なうのが特徴です。これはご家族やヘルパーさんにもたいへんに喜ばれますね。

小瀧●何人くらいの栄養士さんでその仕組みを回しているのですか。

長友●うちは3人で回しています。管理栄養士でないためなので、人集めには正直かなり苦労しています。でも、これは結構チャンスだと思っています。家の中に入っているいろいろと食事回りのご相談に乗りますので、家事代行などそれ以外のお困りごとについてもデイサービスの保険外サービスとして受けられる可能性がとても高いからです。

小瀧●なるほど、それならば弊社でも準備をしています。日本栄養士会も推奨している「認定栄養ケア・ステーション」

なども合わせて申請していったら、もっと幅広く、デイサービス、配食、子ども食堂、総合事業、保険外サービスなどとの組合せができるかもしれません。そこまですぐと本当に国内でも食に特化した地域の通いの場として、珍しいモデルがでると思います。弊社でも大田区初の「介護事業者としての栄養ケア・ステーション」の申請準備を進めておりますので、いつでもご相談ください。

コタツキー、かく考え

長友さんはとにかく熱い想いと志をおもちで、行動力の塊のような人です。今は苦労しながらビジネスモデルを構築中と思いますが、このノウハウが大企業に向けたコンサルティングなどを通じて拡大すると、さらにおもしろくなると思います。



小瀧 歩 (こたき あゆむ)

アグリマス(株)代表取締役

税理士 神道自然流空手初段

1967年生まれ 早稲田大学商学部卒。不動産、生保、大手監査法人を経て2003年新興市場へラクレスの立ち上げに参画。弥生(株)執行役員の後、独立。10年、アグリマス株式会社設立。東京・大田区にて「日本一食事にこだわる」デイサービスを開設。「産直八百屋」「ヨガ」とともに介護予防プログラムの「健幸TV」運営。

2016年厚生労働省「保険外サービスガイドブック」掲載。2017年経済産業省「健康寿命延伸産業創出推進事業」採択。2018年(社)日本健康食育協会「健康食育アワード・大賞」。